

分校だより

5月の行事

地域と共に歩む
大曲農業高等学校太田分校
TEL 0187(8) 1311
FAX 0187(86) 9035

第15回全校田植え競技会

爽やかな風が吹く中 速さと技術を競い合う

●今年で15回目を迎えた「全校田植え競技会」が、5月30日(月)、太田分校実習田で行われました。例年、田植え前日に型付け作業を行っていましたが、前日の夜に強い雨が降ったことで所々消えて印が見えなくなるトラブルがありました。そこで今回は、田植え当日の午前中に型付け作業を行いました。朝方は穏やかな日差しと爽やかな風を微かに感じる絶好の田植え日和となりました。やがて気温もどんどん上がり、競技会開始の頃には汗ばむほどの暑さを感じました。今年も暑さに負けぬ、熱気溢れる田植えとなりました。

●競技会は植え付けの速さと正確さを競いました。印が見えにくい所では多少曲がり目立つ場所もありましたが、各学年とも昨年以上に丁寧で正確な植え付けをしてくれたようでした。

以下、今年の全校田植え競技会の様子を写真を交えて紹介します。

型付け作業

●田植え競技会当日、三年生の農業コースを選択している生徒が朝から田植え準備作業を行いました。型付け作業とは、30センチ幅の型付け道具を縦横に引つ張り印を付ける作業です。生徒たちは水田に入り、慎重に植え付けの印を付けてくれました。水田の水抜きは前日の夕方から行いましたが、この日は朝から天気が良く気温も上昇してきました。水の抜かれた水田はみるみる乾いてきて、真っ直ぐ田型を引くのは至難の業です。所々印がつかないあたり、蛇行をしながら予定していた10アールの水田の型付け作業には約二時間ほどかかりました。また、面積を測量し、学年の境界に目印のヒモを張る作業や苗の配分など、全校田植え競技会の準備に一生懸命取り組んでくれました。

開会式

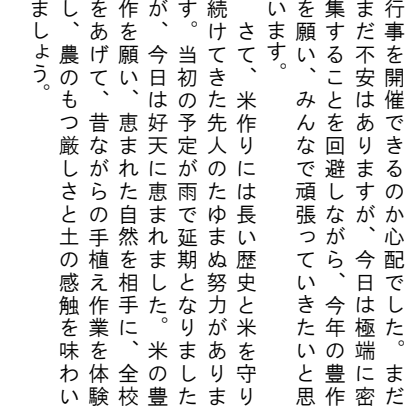
●今年の開会式もマスコミの方々が訪れ、賑やかな開会式でした。

はじめに校長先生から挨拶をいただき、農業委員長高橋侑大君の挨拶、高田京助先生から植える際の諸注意がありました。

農業委員長 三年 高橋侑大君

●今年も太田分校伝統の「全校田植え競技会」の季節を迎えました。今年で15回目、いまだに新型コロナウイルス感染症拡大の影響があり、今年も恒例の田植え行事を開催できるのか心配でした。まだまだ不安はありますが、今日は極端に密集することを回避しながら、今年の豊作を願い、みんなで頑張っていきたいと思っています。

さて、米作りには長い歴史と米を守り続けてきた先人のたゆまぬ努力があります。当初の予定が雨で延期となりましたが、今日は好天に恵まれました。米の豊作を願い、恵まれた自然を相手に、全校をあげて、昔ながらの手植え作業を体験し、農のもつ厳しさと土の感触を味わいましょう。



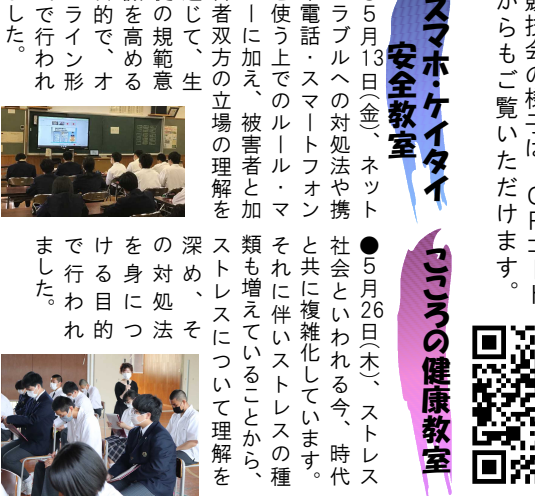
【作戦会議】

●開会式後、各学年で作戦会議を行いました。一年生は初めての競技会で、不安と緊張でいっぱいだったようです。二年生は昨年の経験を踏まえて、綿密な作戦を立てていました。農務部の先生方が各学年に付き、どのように植えるのか作戦を授けます。どちらも最後は円陣を組んで、声高らかに気合いを入れていました。



●渡辺勉校長先生のスタート合図と共に歓声を上げながら水田に入りました。競技は序盤から三年生がベイスをつかみ、一・二年生をじりじりと引き離しました。二年生も離されまいと食らいつきます。しかし、経験に勝る三年生がさらにリードを広げます。二年生もこれ以上離されまいと必死に食らいつきますがなかなか追いつけません。三年生は中盤以降もペースが落ちずそのままゴール。約8分遅れで二年生が続きました。その後、三年生と二年生が遅れている一年生の区画へ手伝いに入ります。すると苗がみるみる植えられ、約10アールの水田への植え付けを45分ほどで完了しました。

移植場所を人念に確認



スマホ・ケータイ安全教室

心の健康教室

●5月13日(金)、ネットトラブルへの対処法や携帯電話・スマートフォンを使う上でのルール・マナーに加え、被害者となるリスクについて理解を深めて、その対処法を身につける目的で、オンライン形式で行われました。

●5月26日(木)、ストレス社会といわれる今、時代と共に複雑化しています。それに伴いストレスの種類も増えていることから、ストレスについて理解を深めて、その対処法を身につける目的で行われました。



